

「慰安婦」像の設置めぐり 60年の歴史無視して姉妹都市解消

吉村大阪市長 サンフランシスコ市に通知



米サンフランシスコ市のセント・メアリーズ公園に建つ「慰安婦」像

吉村洋文大阪市長は、米サンフランシスコ市に設置された旧日本軍「慰安婦」像をめぐり、60年以上にわたって続いてきた両市の姉妹都市関係を解消することを2日、サ市のロンドン・ブリード市長に通知しました。

「慰安婦」像は、中国系・韓国系米国人らの民間団体が、昨年9月、同市内の民有地に設置。10月に市に寄贈され、サ市議会が全会一致で寄贈を受け入れる決議を可決しました。吉村市長は、像の碑文に「数十万人の女性性が性奴隷にされた」と書かれていることなどについて、「日本、大阪に対するバッシング」と主張し、サ前市長が決議を承認したことを受けて、姉妹都市関係の解消の意向を示していました。

吉村市長は、サ前市長の急死で解消の手続きを延期していましたが、今年7月、前市長の方針への見解を質す書簡を現市長に送り、9月末までの回答を求めています。書簡では、「設置された碑文には不確かで一方的な文言が含まれており、歴史の直視ではなく単なる政治的な日本批判であり、サンフランシスコ市の現地コミュニティーに二分断を持ち込む『貴市の意向を示しています。』」と述べ、

「言語道断」よくする会が声明

大阪市をよくする会は9日、抗議声明を発表しました。声明では、「60年にわたって両市の市民が、文化、経済など様々な分野で交流を重ねてきた関係を、自らの『歴史認識』に基づいて一方的に姉妹都市関係を解消するなど言語道断」とし、「世界の流れを見るならば、吉村市長の態度はまことに恥ずべき行為であり、国際感覚が全く欠如している」と指摘しています。

「慰安婦」像めぐり動き 碑の設置や公有地への移管を行わないよう求めてきました。国会でも、安倍首相がサ市への寄贈について、「わが国政府が求めるインターネット署名など」とし、サ市に対して拒否権の行使まで求めています。市議会では、共産、自民、公明が反対を表明してきました。

サ市長「一人の市長が一方的に関係を終わらせることはできない」

サ市議会 歴史否定主義とのたたかいを評価 「よくする会」に栄誉賞

慰安婦正義連盟も 会に、それぞれ感謝状、栄誉賞を贈りました。「慰安婦」像設置1周年の9月22日、像が建つセント・メアリーズ公園で開かれた記念式典は、姉妹都市解消への反対集会などに取り組んできた「大阪市をよくする会」に、それぞれ感謝状、栄誉賞を贈りました。

感謝状では、会が、平和運動に貢献し、ファシズム、人種差別、超国家主義とたたかっていることに感謝するとともに、「慰安婦」の歴史を否定する大阪府及び日本政府に抵抗していることを讃えています。

「慰安婦」像をめぐり、60年以上にわたって続いてきた両市の姉妹都市関係を解消することを2日、サ市のロンドン・ブリード市長に通知しました。吉村市長は、像の碑文に「数十万人の女性性が性奴隷にされた」と書かれていることなどについて、「日本、大阪に対するバッシング」と主張し、サ前市長が決議を承認したことを受けて、姉妹都市関係の解消の意向を示していました。



サンフランシスコ市を訪れたメンバーから、サ市議会から贈られた栄誉賞などを受け取った大阪市をよくする会事務局＝10月5日、大阪市北区内